

I 第51週の発生動向 (2014/12/15~12/21)

1. インフルエンザについては、八戸、上十三保健所管内で**注意報**が発令されました。
2. 咽頭結膜熱については、弘前保健所管内で第45週から**警報**が継続しています。
3. 感染性胃腸炎については、患者報告数が前週の271人から387人に増加しました。
4. 伝染性紅斑については、八戸保健所管内で第47週から**警報**が継続しています。

II 第51週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 内科 (90) インフルエンザ	44	3.4	28	1.9	175	11.7	50	7.1	204	22.7	15	2.5	516	7.9	333	3	3.0	41	3.4
(79) RSウイルス感染症	33	4.1	14	1.6	11	1.1	4	0.8	7	1.2			69	1.6	-11			33	4.1
(80) 咽頭結膜熱	3	0.4	12	1.3	2	0.2			1	0.2			18	0.4	-9			3	0.4
(81) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	1.1	9	1.0	14	1.4	3	0.6	2	0.3	4	1.0	41	1.0	4			9	1.1
(82) 感染性胃腸炎	46	5.8	89	9.9	142	14.2	12	2.4	74	12.3	24	6.0	387	9.2	116			46	5.8
(83) 水痘	6	0.8	3	0.3	8	0.8			2	0.3	14	3.5	33	0.8	4			6	0.8
(84) 手足口病															-1				
(85) 伝染性紅斑	7	0.9	1	0.1	30	3.0			7	1.2			45	1.1	-8			7	0.9
(86) 突発性発しん	2	0.3	4	0.4	8	0.8			2	0.3	2	0.5	18	0.4	1			2	0.3
(87) 百日咳															0				
(88) ヘルパンギーナ															0				
(89) 流行性耳下腺炎	2	0.3	1	0.1	2	0.2			1	0.2			6	0.1	5			2	0.3
眼科 (91) 急性出血性結膜炎															0				
(92) 流行性角結膜炎			1	0.3	2	1.0	1	1.0					4	0.4	-1				
(97) クラミジア肺炎															0				
基幹 (98) 細菌性髄膜炎															0				
(100) マイコプラズマ肺炎					3	3.0					4	4.0	7	1.2	1				
(101) 無菌性髄膜炎															0				
(82) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)					6	6.0	1	1.0	2	2.0	1	1.0	10	1.7	1				

は警報、 は注意報。「空欄」: 患者発生無し。

III 全数把握疾患 (掲載数は最新情報)

- ・結核(二類全数把握疾患): 八戸1人、五所川原1人 (2014年計:364人)
- ・腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 東地方+青森市3人 (2014年計:27人)
- ・アメーバ赤痢(五類全数把握疾患): 八戸1人 (2014年計:7人)
- ・後天性免疫不全症候群(五類全数把握疾患): 弘前1人 (2014年計:5人)

IV 病原体検出情報 ※ () 内は、検査材料及び検体採取日、検出数です。

風疹疑い患者(尿、血液、12/12)・・・パルボウイルス B19: 弘前(2)

感染症の窓

海外で注意が必要な感染症

蚊やマダニなどが媒介する感染症

熱帯・亜熱帯地域ではマラリア、デング熱、チクングニア熱などに注意が必要です。

蚊に刺されたり、マダニに咬まれることがないように、野外活動の際には、長袖・長ズボンを着用する、素足でのサンダル履き等は避ける、虫除け剤を使用するなどの注意をしましょう。

動物からうつる感染症

東南アジアを中心に、中東・ヨーロッパ・アフリカの一部地域などで鳥インフルエンザが、アジア、アフリカなどで狂犬病が、アフリカでエボラ出血熱が流行しています。

野生動物や家畜はどのような病原体を持っているかわからないことが多く、重篤な感染症の病原体を持っている可能性もあります。海外では、むやみに動物に触れることはやめましょう。

諸外国での感染に注意すべき感染症

麻しん(はしか)やポリオは、諸外国では未だに流行しており、ポリオは、アフリカや中東では流行国からの輸入例が報告されています。

中東呼吸器症候群(MERS)はアラビア半島を主とした中東地域で流行しています。

そのほか注意すべき感染症

公衆衛生の整備が不十分な地域では、水や食べ物から感染する消化器系の感染症(A型肝炎、E型肝炎、コレラ、赤痢、腸チフスなど)や生鮮魚介類や生肉等を介した寄生虫疾患に注意が必要です。

こまめに手洗いをし、生水は飲まない、氷を避ける、完全に火の通った食べ物を食べる、などの対策をこころがけましょう。

年末年始は海外へ渡航される方が多くなります。海外で感染症にかからないためにも正しい知識と予防方法を身につけましょう。予防接種が受けられる感染症については事前に接種を検討し、また、帰国後、体調に不安のある場合は早急に医療機関を受診しましょう。

検疫所や外務省のホームページで渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。

【参考】・厚生労働省ホームページ『年末年始における海外での感染症予防について』

(http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel/2014winter.html)・厚生労働省検疫所

『FORTH』(<http://www.forth.go.jp/>)・外務省 海外安全ホームページ (<http://www.anzen.mofa.go.jp/>)

VI 保健所管内別全数把握疾患発生状況 (2014年第35週～第51週)

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
35	H26.8.25 ~ H26.8.31						
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	デング熱1人	腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症1人	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14					腸管出血性大腸菌感染症1人	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21						
39	H26.9.22 ~ H26.9.28					腸管出血性大腸菌感染症1人	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5		レプトスピラ症1人			腸管出血性大腸菌感染症2人	
41	H26.10.6 ~ H26.10.12			カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人			
42	H26.10.13 ~ H26.10.19			つつが虫病1人 カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人 ジアルジア症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	
43	H26.10.20 ~ H26.10.26		急性脳炎1人				
44	H26.10.27 ~ H26.11.2					クリプトスポリジウム症10人	
45	H26.11.3 ~ H26.11.9		急性脳炎1人				腸管出血性大腸菌感染症1人
46	H26.11.10 ~ H26.11.16	つつが虫病1人					
47	H26.11.17 ~ H26.11.23			A型肝炎1人			
48	H26.11.24 ~ H26.11.30	侵襲性肺炎球菌感染症1人				腸管出血性大腸菌感染症1人	
49	H26.12.1 ~ H26.12.7	つつが虫病1人	急性脳炎1人			腸管出血性大腸菌感染症3人	
50	H26.12.8 ~ H26.12.14		劇症型溶血性レンサ球菌感染症1人				
51	H26.12.15 ~ H26.12.21	腸管出血性大腸菌感染症3人	後天性免疫不全症候群1人	アメーバ赤痢1人			

VII 結核(二類全数把握疾患) (2014年第41週～第51週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
41	H26.10.6 ~ H26.10.12	2	6	4	1	1	
42	H26.10.13 ~ H26.10.19			3	1	2	
43	H26.10.20 ~ H26.10.26	2	2		2	3	
44	H26.10.27 ~ H26.11.2	1	1	1	1	1	
45	H26.11.3 ~ H26.11.9	3	2	2			1
46	H26.11.10 ~ H26.11.16	1	2	1			
47	H26.11.17 ~ H26.11.23	1	2	3	1		
48	H26.11.24 ~ H26.11.30		4	2	1		
49	H26.12.1 ~ H26.12.7		1			1	
50	H26.12.8 ~ H26.12.14	2	1		4	1	
51	H26.12.15 ~ H26.12.21			1	1		

VIII 全数把握疾患発生状況 (全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2014年第1週～第49週累計)

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокス症	オウム病	回帰熱	Q熱	コングジオリチス症	重症熱性血小板減少症候群	チカングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	ブルセラ症	ポツリス症	マリア	野兔病	ライム病
累積報告数	24290	4	143	4023	53	15	131	421	18	9	1	1	1	59	12	246	332	232	2	10	1	57	1	16
分類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルトヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	パニコマイン耐性腸球菌感染症	風しん	麻疹	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	水痘(入院例)	播種性クリプトコッカス症	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
累積報告数	1140	46	1040	214	418	98	164	255	1416	62	180	33	1615	9	1534	119	48	315	460	238	110	21	12	

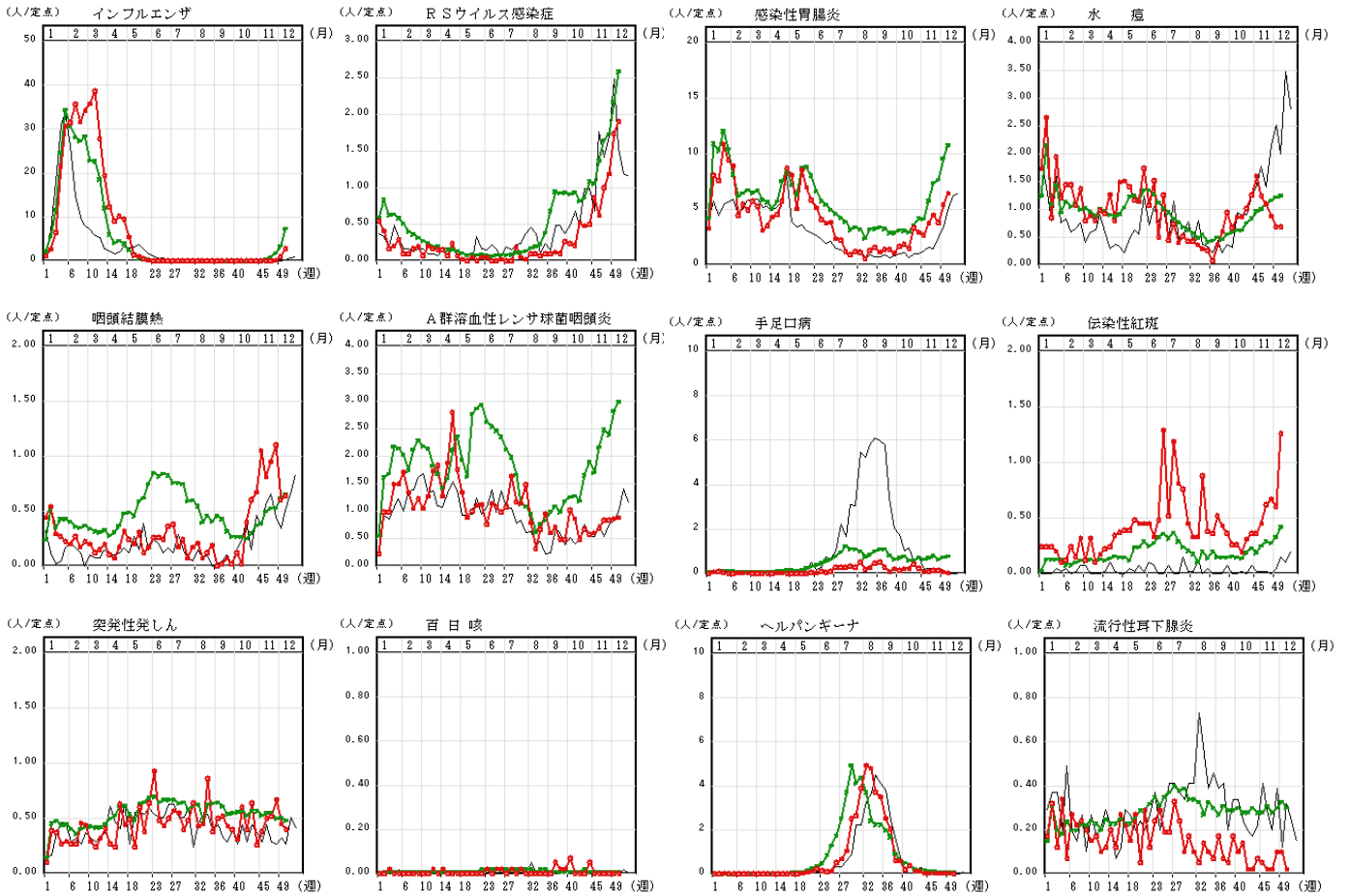
青森県

(2014年第1週～12月25日10:00累計)

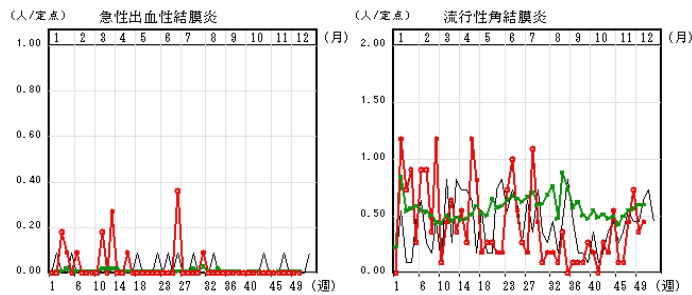
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルトヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風	カルバペネム耐性腸内細菌感染症				
累積報告数	364	27	2	4	13	1	3	1	7	11	10	1	2	5	1	1	7	4	1	2				

IX インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第50週)

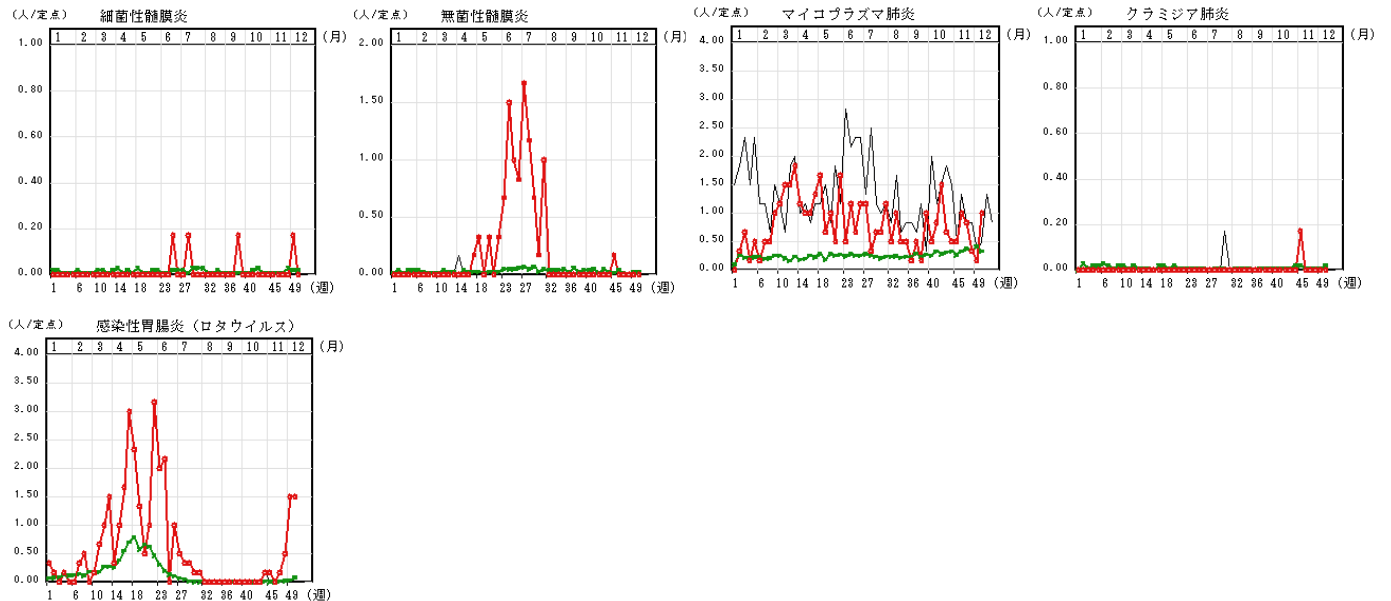
グラフの説明 ○—○は2014年青森県、——は2013年青森県、×—×は2014年全国



X 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第50週)



XI 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第50週)



XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成17年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

第51週はありませんでした。

平成26年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1-4週	5-8週	9-13週	14-17週	18-21週	22-26週	27-30週	31-35週	36-39週	40-43週	44-48週	49-52週	
介護・老人福祉関係施設	件数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
	発症者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
児童・婦人関係施設等	件数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
	発症者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
障害関係施設	件数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
	発症者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
その他施設	件数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
	発症者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
計(月別)	件数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0
	発症者数	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0